

A sand tiger shark (*Carcharias taurus*) excavated from a prehistoric site in the Goto Islands provides insight into the genetic background of the disappeared Japanese mainland population

五島列島の先史時代遺跡から出土したシロワニ *Carcharias taurus* は、絶滅した日本本土個体群の遺伝的背景を解明する手がかりとなる

著者

Xiaochan Yan • Masayuki Nakamura • Hiroyuki Kitagawa • Takushi Kishida

=====

(表題)

五島列島の先史時代遺跡から出土したシロワニ *Carcharias taurus* は、絶滅した日本本土個体群の遺伝的背景を解明する手がかりとなる

著者 顔晓婵・中村雅之・北川浩之・岸田拓士

(和文要旨)

シロワニの現在の日本における分布は小笠原諸島沿岸に限られるが、かつては本州から九州にかけての日本本土南西部沿岸にも分布していた。本研究では、長崎県五島市にある白浜貝塚（縄文時代後期～弥生時代）から出土したシロワニの歯を用いて、放射性炭素年代測定およびミトコンドリア DNA の部分配列決定を行った。この個体の年代は縄文時代後期の紀元前 1684～1307 年と推定された。ミトコンドリアハプロタイプは現代の西オーストラリア個体群のものと同一であったが、小笠原個体群のものとは異なっていた。また本研究で得られた DNA 配列は、著者らの知る限り、骨が残りにくい軟骨魚類において現時点で最古の報告例である。

<https://link.springer.com/article/10.1007/s10228-026-01079-6>